

# メセレイエスの仮面装束における「伝統」考

## —語りと類型から読み解く「死と再生」—

### Study of "tradition" in Mask Costumes of Mecerreyes Interpreting "Death and Regeneration" from the Story and Typology

吉村 宥希

YOSHIMURA, Yuki

#### 摘要

Previous studies of European masks linked the masks exclusively to the themes of death and regeneration, and described them as representing a visiting god who announces the end of winter and the coming of spring. However, the people of the village of Mecerreyes in Castilla y León, Spain, do not see the mask costumes that appear in Carnival from the perspective of death and regeneration. This paper examines the best way to understand the mask costumes of Mecerreyes village by focusing on the background of words such as "tradition" and "authentic," as spoken by the villagers.

The carnival, that takes place before Lent, is said to preserve the historical traditions of the village of Mecerreyes. The mask costumes that appear on the day of the Carnival are also considered to be traditional, and the wearers act to scare the audience. The village people say that mask costumes are, "an old thing in the village," in that they represent traditions, and every year several of these mask costumes are made and used by the villagers.

When the 81 different kinds of mask costumes in the village were categorized into "man", "animals", "artifact", "natural object" and "other", most of the meanings of the costumes were related to agriculture or pastoralism. However, it has also become clear that many of them relate to things that were once common, but are not common in the modern Mecerreyes village.

The changes in village life in terms of agriculture and pastoralism have also made it clear that the word "tradition" spoken by villagers mainly refers to the life of the village before 1970.

In conclusion, the case of the village of Mecerreyes can be characterized as a visiting god in the previous studies because of its relevance to agriculture and factors of fear. On the other hand, the case of the village of Mecerreyes is novel in that some of its cases represent artifacts and occupations in the past.

キーワード：仮面装束 メセレイエス カーニヴァル 伝統

**Keywords:** Mask Costumes, Mecerreyes, Carnival, Tradition

## 1. はじめに

### 1. 1. 先行研究

#### 1. 1. 1. スペインカーニヴァル研究

カーニヴァルは蕩尽の祝祭であり、「俗ラテン語の CARNELEVARIUM[carne (肉を) levare (取り去る)]」[カロ・バロッハ 1987: 29]を語源として結び付けることで断食の期間に入る前に肉類を食べるための日だとも、あるいはキリスト教との結びつきによって肉体的快樂を取り除く日として説明されることもある[カロ・バロッハ 1987]。

こうしたカーニヴァルは、仮面、あるいは仮面を含めた仮装と不可分の関係にある。カーニヴァルにおける「仮面を被る行為」は普遍的に暴力や冗談、滑稽な行為、「生や動きや淫奔という概念から死や終末の概念へ移行しようとの望み」といったものとの結びついているものであり、その上でスペインカーニヴァルの歴史においてはそうした仮面を禁止する条例が幾度となく出されてきたとフリオ・カロ・バロッハは述べている。また、バスク語の「サモルア」「モソルア」が「変装した仮面もしくは人間」や「怖ろしいお化けあるいは霊」を意味することから、そうした言葉との関連が考えられる「モソルアク」「ソモルアク」や、それと酷似する「サマロネス」「サファロネス」といった仮面着用者などは「死者の魂や霊を表したものであったと帰納することができよう」と述べてもいる[カロ・バロッハ 1987: 278-279]。

またオスカル・ハビエル・メンドーサ・ガルシアはいくつかのスペインカーニヴァルにおいて、時に女性に向かって鞭を振るうという仮面着用者の行為に着目する。メンドーサ・ガルシアはそうした行為と古代ローマ時代のルペルカリア祭との関連を指摘したうえで、時にカーニヴァルが行き過ぎて乱交の場となったが故に禁止されるにいたることも歴史上あったことから「鞭で打つ行為」と多産性とを関連付けて述べている[Mendoza García 2002]。

しかしながらこうしたスペインカーニヴァル研究で語られることの多くは、仮面が用いられるカーニヴァルの起源をルペルカリア祭に求めるものであり、現在復興しつつある「伝統的」なカーニヴァルにおいて仮面がどのような意味においてとらえられているのかについて触れられてはいない。その一方でスペインの仮面についての記述は仮面研究よりも、それが登場するカーニヴァルについての研究で為されていることが多いというのが現状である。

他方、勝又はイタリア、ヴェネツィアのカーニヴァルの起源を古代ローマ時代のバッコスの祭りに求めつつ、古代ギリシア・ローマ時代のディオニュソスやバッコス、サトゥルヌスの祭において使用された仮面や演劇の仮面に関連付けることでヴェネツィアカーニヴァルやそれに登場する仮面群に、厄払いや社会調節機能としての意味を見出している[勝又 2002]。

このようにスペイン以外のカーニヴァル研究においては、仮面をその主軸に置くことで祝祭の検討を行っている事例も存在する。こうしたことからカーニヴァルに登場する仮面を検討することは、スペインカーニヴァル研究に対しても有意義であると言えよう。

### 1. 1. 2. ヨーロッパ仮面文化研究

キリスト教が普及する以前の、あるいは普及後も一部の地域においては、ヨーロッパにおいて冬は悪魔の棲む、死の季節であると考えられていた。そうした冬において、人々、特に農民は「穀物霊」の死ぬ冬を恐れ、「穀物霊の更新と復活」[遠藤 1982 : 62]を目的とした祝祭が行われていた。そうしたヨーロッパ中部、特にドイツやスイス、オーストリアの山間部では「冬の悪霊や死霊にうち勝つために、自ら仮装することによって霊力をさずかり、魔力を追い払う行事がさかんにおこなわれた」[遠藤 1982 : 70]中で、多くの仮面が用いられた。そうした仮面は恐ろしい姿形によって悪霊に打ち勝つことで冬を終わらせ、そして生の季節である春の訪れをもたらすため、自然界から現れる来訪神であった。人々はそうした祝祭を通じて豊饒を祈念したとされる[吉田 1994・遠藤 1982]。

スペインの仮面についてもまた、カルボ・ブリオーソは古典的な悪魔を表したものについては先祖の霊が受肉、もしくは体現したものであり、それらは冬という季節を用いてその土地に戻ってくると述べている[Calvo Brioso 2012]。

しかしながら、前述もしたが、スペインを中心とするヨーロッパ南部に存在する仮面を対象とした研究は特に不足している。数少ない先行研究を以てしてヨーロッパの他地域のもの、特に地理的・文化的条件の異なるヨーロッパ中部山間部の事例と同一に扱うというのはいささか乱暴である。

### 1. 2. 本稿の目的

このようにスペインにおける仮面文化に関する知見は未だに乏しい。本稿はスペインの仮面文化に関する新たな民族誌的知見を提供することを第一とし、この事例とこれまで報告されてきた「ヨーロッパの仮面文化」とを比較検討することでヨーロッパ仮面研究の新たな可能性を探る。

そのためにも本稿では、スペインのカスティーリャ・イ・レオン州メセレイェス (*Mecerreyes*) の村にて行われるカーニヴァルに登場する仮面装束 "*disfraz*" を対象とし、民族誌的記述の作成とその検討を行う。このメセレイェスのカーニヴァルは今なお伝統的な姿を遺しているとされるが、メセレイェスのカーニヴァルに登場する仮面装束 "*disfraz*" を説明する際、村民は死と再生、悪霊や死霊といったものとは一切結びつけないのである。

調査対象地であるメセレイェスの人々が仮面装束 "*disfraz*" を説明する際に多用する「伝統」あるいは「本物」という言葉の意味内容を検討し、その言葉の内に先行研究との関連を追うことで、現在まで語られてきた「ヨーロッパの仮面文化」が妥当であるのか探る。

### 1. 3. 表記について

本稿では、特筆すべきスペイン語単語は初出箇所において日本語訳と併記する形で原語を、

イタリック体にて表記する。また人名については原語における表記とし、初出においてフルネームを記載した後、以後ファーストネームでの表記とする。スペイン語のカタカナ表記はおおむね、現地での発音であるジェイスモ (*yeísmo*) (1)に関わらず、既存の表記に則する。

また一部単語に関しては、対応する日本語の訳が適切にその内容を表現し得ていないことから、別途筆者独自の表記を行う。本稿において該当するものは以下のとおりである。

**Disfraz** (複数形: **Disfraces**): 本来の意味は「衣装」「仮装」であるが、調査地においては仮面 (*Máscara*) が用いられる装束に対してこの語が用いられていたため、本稿ではメセレイェスのカーニヴァルにおける仮面装束の総称として以後「ディスフラス」を用いる。

**El Carnaval**: カーニヴァルそのものを指す語であるが、メセレイェスにおいてはカーニヴァルの日 (*El día del Carnaval*) に行われる行事三種の総称としても用いられると同時に、二番目の行事 "**Carnavaradas y Zaramacadas**" を指す語としても用いられる。本稿においては一般的なカーニヴァルの総称として「カーニヴァル」、同日二番目の行事を「カルナバラダス」と表記する。

また、伝統(的)あるいは本物という語を用いる際、メセレイェスの人々が語るもの、あるいはその文脈である際は鍵括弧をつけ「伝統」や「伝統的」、「本物」として表記する。

インフォーマントについては、許諾を得られた者のみ名前を明記する。この場合、初出時のみフルネームで記載し、それ以降はファーストネームでの記載とする。許諾を得られなかった者はアルファベットを用いることにより、人物を特定できないよう配慮の上での明記とする(例えば「A氏」など)。

## 2. 調査対象

### 2. 1. 調査地概要

メセレイェス (*Mecerreyes*) はスペイン王国 (*Reino de España*) 北部、カスティーリャ・イ・レオン (*Castilla y León*) 州の都市ブルゴス (*Burgos*) から南に 33km に位置する村 (*Pueblo*) である。行政区分として県 (*Provincia*) はブルゴス、地域 (*Comarca*) はアルランサ (*Arlanza*)、裁判管轄区 (*Partido Judicial*) はレルマ (*Lerma*) である。標高は 1005m、村域は 59.63 平方キロメートル、人口は 2020 年 2 月 26 日時点で 195 人、人口密度は 1 平方キロメートルあたり 3.54 人である。公用語はスペイン語 (カスティーリャ語)。

生業は主に農業と牧畜である。農業の作物は草本植物であり [**economistas Consejo General "Datos Económicos y Sociales - Mecerreyes"**]、その内容は小麦や大麦である (A氏、2020年2月29日、インフォーマルインタビュー)。

牧畜は、"**Datos Económicos y Sociales - Mecerreyes**"によれば 2009年時点では牛が 210頭、羊が 4255頭、豚が 8325頭、馬が 5頭、兎が 800羽、畜産として飼育されていた [**economistas Consejo General "Datos Económicos y Sociales - Mecerreyes"**]。しかしながら 2020年2月から3月にかけて筆者が観察した限りでは、牛、豚、馬、ウサギは実際に確認できず、村民の「かつては飼育

されていた」という語りしか得られていない。他方、鶏卵を目的として鶏を飼育している人間が、少なくとも2家族存在することは確認できた。

## 2. 2. 団体

メセレイェスに存在する主な団体は2つのみで、1つは村役場である"Ayuntamiento de Mecerreyes"、もう1つがメセレイェスの文化活動全般の主催である"Asociación Cultural Mecerreyes"である。本項目においては本稿に特に関連する後者のみ詳細を記載する。

"Asociación Cultural Mecerreyes"は直訳すれば「メセレイェス文化協会」である。本稿では以後「アソシアシオン」と表記する。約80年前に設立、初期の目的は村誌("Revista Mecerreyes")の発行であったが、現在はWebページ"Mecerreyes.com"が取って代わっている。カーニヴァルと冬越しの祭りであるラス・マルサス(*Las Marzas*)を再興したほか、メセレイェスにおいて行われる行事・文化活動の実行組織として機能している。自由に出入りでき、その構成員数も把握されていない非常にオープンな団体であるが、運営の根幹に関わる事由については会長、副会長、書紀、"Vocales"と呼ばれる特に発言権を有する会員らによって話し合われている。

主な行事はカーニヴァル、ラス・マルサス、収穫感謝祭(*Acción de Gracias*)、ドゥルサイナ祭り(*Festival de dulzaina*)、クリスマスのベレン(*Belén*)準備、それらに関わる食事等の準備、装束の調達・準備・保全管理、楽器奏者への依頼などが挙げられる。その他、カーニヴァルにおける実行者確保も行っている。入会に際して入会金・年会費は存在せず、活動における資金はアギナルド(*Aguinaldo*)と呼ばれる寄付集めの行事などで得られる村民からの寄付(*apoyo*)に依拠している(Mari Carmen Mambrillas Portal氏、2020年3月7日、メセレイェスにてフォーマルインタビュー・Oscar Alonso Alonso氏、2020年3月10日、メセレイェスにて、同年3月13日、ブルゴスにて、両者ともにフォーマルインタビュー)。

## 2. 3. インフォーマント

本稿を執筆するにあたり使用した語りのデータについて、その主なインフォーマントの情報は下記の通りである。

Mari Carmen Mambrillas Portal氏：アソシアシオン書紀、50代、女性。

Miguel González Mambrillas氏：Mari Carmenの息子、男性。

Oscar Alonso Alonso氏：アソシアシオンの"Vocales"（特に発言権を有する会員の意）、40代、男性。

Jesús Salvador Alonso de Martín氏：メセレイェス出身の民俗学者、メセレイェスのカーニヴァルの復興に寄与、男性。

A氏：2020年2月29日、Las Marzas 昼食時に会話、メセレイェス出身者。

B 氏：メセレイェス在住、ドゥルサイナ奏者。

C 氏：2020 年 3 月 2 日時点での Ayuntamiento de Mecerreyes 駐在員。

カーニヴァルの実施に関わるアソシアシオンの人間として Mari Carmen 氏と Oscar Alonso 氏、メセレイェスの知識人として Jesús Salvador Alonso 氏、その他カーニヴァルの実行に関わっている人間として Miguel González 氏と B 氏、単純な祝祭参加者として A 氏と C 氏を選定した。

## 2. 4. 行事 - El día del Carnaval

メセレイェスにおいては夏と冬に特に大きな祝祭が行われる。8 月には収穫感謝祭 "*Acción de Gracias*" が、そして冬にはカーニヴァルの日 "*El día del Carnaval*" と旧ローマ歴の年越祭であるラス・マルサス (*Las Marzas*) が行われ、こうした際には、普段は他の都市部で暮らしているメセレイェス出身者はメセレイェスに戻り、祝祭に参加する。また他にもスペイン国内のドゥルサイナ奏者が集まり演奏を行うドゥルサイナ祭り "*Festival de dulzaina*" なども存在するが、それらすべての実行組織として前述したアソシアシオンが存在している。また、これらの行事の内、ディスフラスが登場するのはカーニヴァルの日に限られ、さらにその内のある行事に限られる。

本稿で取り扱う「カーニヴァルの日 (*El día del Carnaval*)」はメセレイェスにて行われる、四旬節の灰の水曜日の前の日曜日(2)に行われる 3 種類の行事を総称、あるいはその日そのものを指して呼称される。2020 年の開催日は 2 月 23 日の日曜日であった。

この「カーニヴァルの日」に開催される行事は以下のとおりである。

第一に羊毛を身に付け顔を黒く塗ったサラマコ (*Zarramaco*) とドゥルサイナと呼ばれる楽器を演奏するドゥルサイネロ (*Dulzainero*)、独身男性を意味するモソ (*Mozo*)、そして実際に家の人々と会話し寄付集めを行うアグアシレス (*Aguaciles*) らが村内の家々を巡り、寄付を乞うアギナルド (*Aguinaldo*) が行われる。アギナルドは「カーニヴァルの日」の午前 9 時から始まり、12 時頃に終了する。

その後、ディスフラス着用者が観衆 (装束非着用者) に対してちょっかいを出して回るカルナバラダス・イ・サラマカダス (*Carnavaladas y Zarramacadas*) (以後「カルナバラダス」と表記) が行われる。ディスフラス着用者は手にした棒などで観客を驚かせ、また観客もディスフラスに恐怖するというよりも、その姿を見、共に写真に写ることを楽しんでいるようにも見られる。14 時 30 分頃にディスフラス着用者達が次第に撤収するとカルナバラダスは自然に終了し、人々は昼食を取り始め、そしてシエスタの時間となる。

シエスタの後、17 時頃になると第三の行事であるコリダ・デル・ガジョ (*Corrida del Gallo*) が始まる。これはサラマコ (*Zarramaco*) に守られた王 (*El Rey*) が掲げる雄鶏を観衆が奪取する、というゲーム性を含んだ行事である。かつてキリスト教カトリックの影響が、あるいは思考が主流であった時代には淫欲の象徴である雄鶏の追放の意味として、コリダ・デル・ガジョ

が行われていたという(3)[Alonso de Martín 1993]。

これらの行事はスペイン内戦の影響で行われなかった時期も存在したが、1980年にペドロ・ルイス・サンタマリア (*Pedro Luis Santamaría*) によって復活した後は多少の変化を伴いつつも現在まで続いている (Mari Carmen 氏、2020年3月7日、メセレイェスにてフォーマルインタビュー)。

かつての「カーニヴァルの日」は三日間にわたる行事であり、子供を対象としたコリダ・デル・ガジョなども行われていた。現在においては平日に仕事があるなどの関係で一部行事は行われなくなり、残ったものは日曜日に集約され開催されるようになった[Alonso de Martín 1993]

(Jesús Salvador Alonso de Martín 氏、2020年3月11日、メセレイェスの J. Salvador 両親宅にてフォーマルインタビュー)。

カーニヴァルという行事自体はメセレイェス特有のものではない。例えばブルゴスの街においてはカーニヴァルが数日間続く行事として同時期に行われるが、しかしながらこうした都市部のカーニヴァルは若者たちによる、既製品などを用いた仮装騒ぎ(4)やそれに併せる形で音楽イベントやパフォーマンスなどが行われる、いわば「現代的なカーニヴァル」と形容できるものである。また、メセレイェス近辺の他の村においてはカーニヴァル自体を行っていないとされる (Oscar 氏、2020年3月3日、プエンテドゥラ (*Puentedura*) にてインフォーマルインタビュー)。

### 3. Disfraz について

#### 3. 1. 概要

前述した通り、メセレイェスで行われるカーニヴァルの日の行事の内、カルナバラダスにのみ登場するのが仮面装束ディスフラス (*Disfraz*) である。ディスフラスは基本的にフェルトや麻袋などを用いて身体全身を覆い隠しており、その上から特定の素材をふだんに装飾することによって、あるいは対象となる扮装に似せることによって、事物の表現を行っている。顔部分の素材は厚紙やボール紙によって作られていることが多いが、表現する事物によっては麻袋を単純にかぶっただけのものや、あるいは動物の骨を組み合わせて顔の部分を構成している事例も見られる。着用者は自らのシャツの上からディスフラスを身にまとう。一度身にまとったディスフラスは、着替えのために使用されているメセレイェスの元小学校内を除き、取り外されることはない。着用者に性別の区別はなく、そして年齢層も幅広い。

ディスフラスは「カーニヴァルの日」以前にアソシアシオンによって、誰がどのディスフラスを着用するか確認がとられている。これはディスフラス着用の希望が重複しないための措置であり、対象となったディスフラスには「予約済み (*reservado*)」と書かれたタグが付けられる。またアソシアシオンはディスフラスとその着用者のリストを作成している。

そのリストによれば 2020年2月23日の「カーニヴァルの日」において、事前にアソシアシ

オンが把握していた（着用者リストに名前が記入されていた）ディスプレイ着用者の数は計 35 名であり、それに加えて 3 名が新たな仮面装束を身に着け参加しているほか、リストに記入の無いディスプレイも少なからず参加していたことが後の聞き取り調査によって判明している。それらディスプレイの総数は、2020 年度に使用されなかったものも含めると 2020 年 2 月 23 日時点で計 81 種を確認することができる。ディスプレイの数は毎年 1 種から 2 種ずつ増えているという（B 氏、2020 年 2 月 23 日、インフォーマルインタビュー）。

こうしたディスプレイの目的は単純に人を「怖がらせる (*asustar*)」、あるいは「恐怖を与える (*dar miedo*)」ことにある。カルナバラダスの間、ディスプレイ着用者達は手にした棒で叩くなどで観衆を驚かし、恐怖を与えようと行動する。

またこの「怖がらせる」「恐怖を与える」というディスプレイの目的はディスプレイ着用者の動きのみならず、ディスプレイを制作する段階からも意識されている。アロンソ・デ・マルティンはディスプレイについて「怖がらせ、恐怖を与えるために袋や布切れ、ベッドカバー、毛布を用いて注意を引く」 [Alonso de Martín 1999 : 34、訳は筆者による]と述べている。このようにディスプレイは行動のみならず、造形にも目的が反映されているのである。

そうした「恐怖を与える」ことを目的としたディスプレイが表現するものは「メセレイェスにおける伝統的なもの」あるいは「メセレイェスにある古いもの」であると語られる。例えば Oscar 氏は使用する素材もメセレイェスにあるものに限られるとし、さらに詳細な条件として「伝統的なモノであること (*materiales tradicionales*)」「古いこと (*antiguos*)」「プラスチックを使っていないこと (*no plastico*)」「最近のものではないこと (*no casos modernos*)」を挙げている(5) (Oscar 氏、2020 年 3 月 10 日、メセレイェスにてフォーマルインタビュー)。このようにして制作されたディスプレイは、それそのものが「伝統的」な表象としてメセレイェスの人々には捉えられる。このことからディスプレイそのものの要素を検討することによって、人々が何を以てして「伝統」「本物」としているかが読み解けるだろう。

ディスプレイは素材によって、あるいは外見上の特徴によって表現の基となるイメージを指し示しているが、同時に名称からも読み解くことができる。例えば動物の骨を用いて制作されたディスプレイは「骨」を意味する "*Huesos*" と呼称される。

こうしたディスプレイの名称は作成した人間によって名付けられることもあるが稀であり、基本的には「何を素材としたか」によって名付けられ、そこに特別な意味はないと Miguel González Mambrillas 氏は述べる (Miguel 氏、2020 年 7 月 10 日、メールにて(6))。加えて Mari Carmen 氏もまた、ディスプレイの名称はそれがなにを素材として制作されたかを表わすとし、例として「もしディスプレイに羽が用いられていたら羽のディスプレイになり、布切れが用いられていたら布切れのディスプレイになる」と述べている (Mari Carmen 氏、2020 年 3 月 7 日、メセレイェスにてフォーマルインタビュー)。



Miguel 氏と Mari Carmen 氏が述べる **表 1** メセレイェスのディスフラス一覧 (筆者作成)

ようにディスフラスの名前は、そのディスフラスを形成する素材によって名付けられるものであるが、しかしながらそうしたディスフラスに対してメセレイェスの人々は分類を行っていない(7)。このことからメセレイェスの人々がディスフラスに対して重要視しているのがあくまで素材、あるいは表しているものが「伝統的」であるか、という点に終始していることがわかる。

その上で、メセレイェスの人々がどのようなものを「伝統的」だとして、ディスフラスの素材に用いるのかを検討するためには、ディスフラスを多少なりとも類型化しなくてはならないだろう。どのような共通項が各ディスフラス間に存在しているかがわかれば、「伝統」を明らかにするための一助となろう。右記には現時点で筆者が把握しているメセレイェスのディスフラスの一覧を掲載する (表 1)。

これは 2018 年と 2020 年のメセレイェスのカルナバラダスにおいて、「予約」という形で事前に誰がどのディスフラスを着用するかをアソシアションがまとめたリストを基底として参照し、さらに 2020 年に新しく登場したものや、インタビューや過去の村内誌に記載があったものなどから知り得たディスフラスを加えた一覧である。初出年の順に記載としている。併記の日本語における意味は『現代スペイン語辞典』と Carlos Arribas Alonso による "En hablar y el hacer de las gentes de Mecerreyes" を参照した。

一部のディスフラスにおいては同名かつ外見上の特徴が極めて類似したディスフラスを、アソシアションによるリストに記載されている初出年以前の写真などの資料に認めることができる。こうしたディスフラスについては現存のもので確認できる初出年を記載としている。理由

類型	初出年	名称	意味
人間	1998以前	Cura	司祭
	1999以前	Domador	猛獣使い
	2008	Juez	裁判官、判事
	2007	Obispo	司教
	2009	Mujeres	女性(達)
	2010	Cabezón	大頭・頑固者
	2012	Mujer toquilla azul	青いスカーフの女性
	2014	Dormilon	寝坊助
	2014	Plañideras, pelele	泣き女、人形
	2015	Abuela	祖母
	2015	Abuela "verde"	祖母「緑」
	2016	Abuela	祖母
	2016	Niña diabólica	悪魔のような子
	2016	Alimañero	害獣のハンター
	2017	Ahorcado	絞首刑囚、絞死者
	2017	Monje, peregrino	修道士、巡礼者
	2019	Vieja de luto	喪に服した老女
	2019	D.Quijote	ドン・キホーテ
	2019	Cheposo	背骨の湾曲した(人)
	不明	Costalero	農作物を運ぶ人間
動物	2002以前	Carnero II	羊
	2004	Oso	熊
	2007	Vaca	牛
	2008	Cerdo	豚
	2009	Carnero	羊
	2009	Caballo	馬
	2013	Caballo	馬
	2013	Caballos arado	犁(すき)馬
	2015	Niño caballo	馬の男の子
	2015	Caballo Señor	優雅な馬
2016	Jabalí	イノシシ	
モノ	1998以前	Trapos (Retales de tela)	ぼろ(布の切れ端)
	1999以前	Cordeles	綱、紐
	1999以前	Sacos y sacudideras	袋と揺らすもの
	2002以前	Sacos I	袋
	2002以前	Cuerdas	縄、ロープ
	2003以前	Plumas	羽
	2002以前	Huerta	野菜畑・果樹園
	2003	Miel	皮
	2004	Huesos	骨
	2005	Espantapájaros	かかし
	2007	Escriños	かご
	2008	Sacos II	袋
	2008	Botones	ボタン
	2009	Lanas	羊毛
	2009	Coloño cabeza	かご頭
	2011	Cribas	ふるい
	2012	Estaquillas	杭、木釘
	2013	Brasero	火鉢・火桶
	2013	Corchos	コルク栓
	2014	Chapas	薄板、口金、バッジ
	2014	Tripas	腸、はらわた
	2015	Periódicos	新聞
	2015	Juncos	イグサ、杖
	2016	Carraca	カラカラと音を出す道具
	2016	Cintas	リボン、テープ
	2017	Lenzuelo paja	わら包み(意訳)
	2017	Coloños 3	かご(複数形)
	2018	Latas	缶・缶詰・ブリキ
	2018	Escriño trenzas	三つ編みのかご
	2019	Volantes	チラシ
	2019	Pelo caballo, pieles	馬の毛、皮
	2019	Sarmientos, parrilla	つる、網焼き
	2019	Cestas con barro	泥の入ったかご
	2019	Lechugas, escriño	レタス、かご
	2020	Dientes	歯(入れ歯)
2020	Chapas	口金	
2020	Lana	羊毛	
自然物	2002以前	Gallarones	没食子
	2009	Centeno	ライムギ
	2010	Musgo	コケ
	2010	Pino	松
	2011	Esparto	アフリカハネガヤ(植物)
	2012	Tambarillas	枝
	2013	Gusanos	虫・毛虫・ウジ虫
	2013	Angel Ajos	ニンニクの天使
	2015	Cardos	カルドン、アザミ
	2017	Hiedra	木蕨(キツタ、植物)
2018	Nueces	クルミ、木の実	
その他	2013	Diablo	悪魔
	2013	Muerte	死

としては、現在において同名のディスフラスが複数個併存している事例もある以上、かつての写真資料のものを現在のものと同一視するというのは多少強引であるという点、そしてかつての資料で確認できなかった他の現存するディスフラスにおいても同様に、過去に存在していたものを作り直したものであるという可能性が捨てきれないという点が挙げられる。

### 3. 2. ディスフラスの分類

メセレイェスの人々がディスフラスに対して分類を行っていないことは前述の通りだが、ディスフラスの表す意味内容の検討を行うに際し、筆者はディスフラスを、その名称から「人間」「動物」「生活に関わるモノ」「自然物」「その他」と分類を行った。以下ではそれぞれの分類の説明とその傾向を見ていく。

#### 3. 2. 1. 「人間」

「人間」には人々そのものを指すディスフラスを分類した。そうしたディスフラスの名前が表す事由は性別、年齢、職業、生物学的な特徴や服装の状態である。「人間」に分類できるディスフラスの多くは実際の間人が着る服装を着用しており、顔の部分のみボール紙などを加工した仮面で隠している。この際、着用する服装は近年のTシャツなどではなく、かつて農作業を行う際に着用されていた、つまり今では着用されていない形態の服装であることに特徴づけられる。加えて、そうしたかつての農作業に関連するディスフラスは、服装のみならず行動によってもそれを表現していることがある。例えば「農作物を運ぶ人間 (*Costalero*)」はかつて職業として存在していた、農作物を運んでいた人間を表わしているが、カルナバラダスにおいても肩から背中にかけて巨大な麻袋を背負い練り歩く (*Oscar* 氏、2020年3月10日、メセレイェスにてフォーマルインタビュー)。

また、「人間」のディスフラスは「女性 (*Mujeres*)」や「祖母 (*Abuela*)」など女性そのものを表しているものが多いのも特徴として挙げられる。またここでは「泣き女 (*Plañideras*)」という現在では存在しない職業もディスフラスによって表されている。一方で男性を表すディスフラスも存在するが、女性を表すものと異なりその全てが職業や身体的特徴を名称としている。例えば「修道士、巡礼者 (*Monje, peregrino*)」や「大頭・頑固者 (*Cabezón*)」などである。

#### 3. 2. 2. 「動物」

「動物」は野生と家畜とを隔てず、動物一般の名称を持つディスフラスを分類した。これらのうち馬、牛、豚は家畜としてメセレイェスで飼育されていた記録や語りが存在しており [economistas Consejo General "Datos Económicos y Sociales - Mecerreyes"] (A 氏、2020年2月29日、インフォーマルインタビュー)、羊は現在においても飼育されている。イノシシはメセレイェス近辺に野生している。熊 (*Oso*) のみメセレイェス周辺には生息していない。この「熊」の

ディスフラスは 1914 年にハンガリー人の手によってメセレイェスで用いられて以降、モチーフとして存在している(8)[Alonso de Martín 1999]。

このことから、「動物」のディスフラスはメセレイェスに関わりのある動物の表象であると共に、家畜については現在の姿ではなく、今では飼育されていない家畜を表わしていると言えよう。

### 3. 2. 3. 「モノ」

「モノ」は人の手によって加工、あるいは使用されるものを表すディスフラスを分類した。「モノ」のディスフラスはさらに「牧畜に関わるモノ」「農耕に関わるモノ」「その他生活に関わるモノ」に下位分類することが可能である。

「牧畜に関わるモノ」は動物由来のモノを表している場合に当てはまる。「羽 (*Plumas*)」「皮 (*Miel*)」「骨 (*Huesos*)」「羊毛 (*Lanas*)」「腸、はらわた (*Tiripas*)」「馬の毛、皮 (*Pelo caballo, pieles*)」「羊毛 (*Lana*)」がこれに当たる。その数は「モノ」のディスフラス 37 種の内、7 種である。

「農耕に関わるモノ」はメセレイェスの人々がかつて農作業を行う際に用いていた道具類を表すディスフラスが分類される。例えば「袋 (*Sacos*)」は穀物などの収穫物を入れるための麻袋が用いられているため、農耕関連のモノとして分類できる。そのほか、「かかし (*Espantapájaros*)」や「かご (*Escriños*)」なども含め、「モノ」のディスフラス 37 種の内「農耕に関わるモノ」の数は 11 種である。

「その他生活に関わるモノ」は農耕・牧畜以外の生活の場面で用いられる、あるいは農耕・牧畜と関わらず普遍的に用いられるモノが分類される。例えば「ぼろ (*Trapos*)」や「綱、紐 (*Cordeles*)」、「ボタン (*Botones*)」などがこれに当たる。こうした「その他生活に関わるモノ」のディスフラスは「モノ」のディスフラス 37 種中、19 種存在する。

こうした「モノ」のディスフラスにおいては、特に農耕に関わるものに顕著に表れているが、その大部分が今では用いられていない形態の道具類であるということも特徴として挙げられる。

### 3. 2. 4. 「自然物」

「自然物」は植物や虫など、人の手が入っていないものや農作物など、自然環境に属するものを表しているディスフラスを分類した。「枝」と訳した "*Tambarillas*" は主にほうきを作る際に用いられる乾燥した枝木を表しており [Carlos Arribas 2013]、またディスフラスそのものもほうきを模した姿であることから「モノ」の分類に当てはめることも可能である。しかしながら素材としては人の手が入っていない（乾燥した枝自体はメセレイェス周辺の森に落ちているものを拾ってくる事ができる）ことから本稿においては「自然物」の分類とする。

### 3. 2. 5. 「その他」

「その他」は以上の「人間」「動物」「モノ」「自然物」に分類することが不可能なディスフラスを分類した。

「悪魔 (*Diablo*)」のディスフラスは赤く塗られた、2本の角を持つ仮面が顔を覆っている。身体部分には骨が装飾されており、手には先端部が鋭利な棒が握られている。赤く、そして角を持つ仮面を顔に身に着けているという点では、「腸、はらわた (*Tripas*)」のディスフラスも同様である。しかしながら「腸、はらわた (*Tripas*)」のディスフラスが「悪魔」と名付けられず、身体部分や手に持つ棒に付けられた動物の腸を基に名付けられていることを鑑みるに「悪魔 (*Diablo*)」のディスフラスにおいても身体部分や手に持つ棒に「悪魔」と名付けさせる要素が存在しているのかもしれない。

「死 (*Muerte*)」は死神を模した姿格好をしており、手には鎌（を模したもの。ボール紙・木製）を持ち、身体全体を黒い布で覆い、顔は頭蓋骨がプリントされた黒い布が覆っている。加えて頭には動物の下あごの骨が付けられ、首からは動物の骨を多く通したネックレス状の装飾がかけられている。

### 3. 3. 小括

ここまでディスフラスを「人間」「動物」「モノ」「自然物」「その他」に分類し、その傾向を見てきた。「人間」のディスフラスにおいては「今では着用されない服装」や「今では存在しない職」が表現されていた。また、その服装などからは農耕に関係するものが多くみられた。「動物」のディスフラスにおいては11種の内9種が家畜であったことから、これが牧畜と深く関連していることがわかる。また、そのほとんどが「今では飼育されていない家畜」の表象であった。「モノ」のディスフラスにおいては、特に農耕に関わる「今では用いられていない道具類」をディスフラスとしていた。このようにして考えると、メセレイェスの人々がディスフラスの多くを「メセレイェスに関わる古いもの」の表現として捉えていることが確認できよう。

このように「伝統」や「本物」であるとされるディスフラスはかつての農耕・牧畜と関連しているものが多かった。加えて、こうしたディスフラスで表現される農耕の姿は機械化される前のメセレイェスにおける農耕の様子であり、それに対しメセレイェスに初めて農業にトラクターが導入されたのが1970年代(9)であると語られることから、ディスフラスに求められる「伝統的」あるいは「本物」の農耕の姿は1970年代以前のものであることができる。

また牧畜に関しても、馬や牛、豚は今でこそ各家庭で飼育されていないが、2020年時点で50代であったMari Carmen氏が幼少期の頃は家庭に家畜がいることは一般的であったと語っていたことから(Mari Carmen氏、2020年3月7日、メセレイェスにてフォーマルインタビュー)、遡っても40から50年前、つまりこれもまた1970年代以前のメセレイェスの牧畜の姿がディスフラスに反映されていることになる。

一方、メセレイェスの人々はディスフラスを「死と再生」あるいは「冬の終わり」と関連して語りはしない。メセレイェスにおいてはディスフラスが用いられる「カーニヴァルの日」とは別に、2月の最終日から3月上旬の土曜日から日曜日にかけて、夜中に「ラス・マルサス (*Las Marzas*)」が行われ、これが冬の終わりと春の始まりを告げる祝祭であると村民には捉えられている。また、ラス・マルサスの日付が暦を基準に決められているのに対し、カーニヴァルはキリスト教の四旬節を基準に決められる。このことからカーニヴァルは決して冬の間に行われるのではなく、ラス・マルサスの日取りによって春を迎えた後に行われることもある(10)。こうしたラス・マルサスとカーニヴァルとは関連性がないと現地では語られる (Mari Carmen 氏、2020年3月7日、メセレイェスにてフォーマルインタビュー)。

#### 4. 考察

ヨーロッパ中部山間部に現れる仮面は、死の季節である「冬」をその恐ろしい相貌によって追い出し、生の季節である「春」をもたらす来訪神として、「死と再生」と関連付けられ報告されてきた。

メセレイェスのディスフラスにおいては「死と再生」と関連付けられて語られてはいない。また、メセレイェスの人々の語りにおいてディスフラスは「村のもので作る(11)」ことを「伝統」としていることや、ディスフラスに対して分類が行われていないことから、その素材であることが重要なのであり、それが何を表わしているのかという点に関しては重要視されていない。このことから、人々の語りから「死と再生」との直接的な繋がりを見出すことはできない。

しかしながら本稿で見てきたように、メセレイェスのディスフラスにおいて、人々が「伝統的」であると述べるその表象の多くは農耕に関わるものであった。同時に、カルナバラダス当日の動作のみならず制作の際も人々を恐れさせることを目的にその姿かたちは考えられており、農耕との関連や恐ろしい見た目といった要素は吉田や遠藤らの指摘と通じるものである。このことから、メセレイェスの事例においてもかつてはその恐ろしい姿と動作が冬の悪魔を追い払い、同時に豊穡の祈念としていた可能性は否定できない。

一方でメセレイェスの事例は、先行研究に則さない側面も存在する。

第一に、ディスフラスが表すものは神や悪魔などではなく道具や人々、動物などだという点である。その多くに農耕や牧畜の関係は見られるが、他のヨーロッパの仮面文化と比較した際に、物質文化という点においてメセレイェスの事例は異なるものとも言えよう。

第二に、上述の内容とも関連するが、来訪神としての性格に多少の差異が見られることである。恵みを与えるため自然から訪れる神々、とされてきた先行研究と比較し、メセレイェスのディスフラスは「今では着用されていない服装」「今では存在しない職」「今では飼育されていない家畜」「今では用いられていない道具類」といった、いわば「過去から現れる」ものたちであった。現実の世界とは異なる、異界から現れる存在という意味においては先行する事例と共

通するが、ただちに同様のものであると断定するには慎重になる必要があるだろう。

## 5. おわりに

本稿ではスペインのメセレイェスに存在する仮面装束ディスフラスとそれを説明する際に現地の人々が語る「伝統」「本物」という言葉が、「ヨーロッパの仮面文化」の特徴として先行研究で述べられる「死と再生」とどのように関わるのかを検討してきた。結果、現在では見られない農耕や牧畜に関連する服装や道具、職業などが「伝統」「本物」という言葉によって表現され、人々を恐れさせるディスフラスとして表象されることから、先行研究における来訪神としての性格を見出すことも可能であるが、一方でディスフラスの場合はモノや職業などを表しているものがあるという点において新規性が認められることがわかった。

以上のことから、先行する仮面研究で述べられてきた「死と再生」と関連付けられる「ヨーロッパの仮面文化」という枠組みは再検討が必要であると結論付けられる。その際、異界から現れる「来訪神」としての性格を基底に置きつつも、今後は地理的特性や物質文化の差、そしてそれらに基づく死生観の違いといったものを検討することで、ヨーロッパにおける「来訪神」、そして「ヨーロッパの仮面文化」に対しても新たな枠組みの可能性が提起できることを本稿の結論とする。

加えて、「伝統」という言葉についてはディスフラス以外にも多くの要素がその形成に関連していることは確かである。「カーニヴァルの日」に行われるカルナバラダス以外の行事やそれに登場する雄鶏や王といった役割、それぞれの装束といった多様な要素に加えて、メセレイェス周辺の都市・村落におけるカーニヴァルが現代的な仮装騒ぎになっていることとの対比、それに関わるメセレイェス外の人間からの視線や「伝統」に依拠するメセレイェスの人々のアイデンティティ形成など、検討すべき問題は数多く残っている。

## 参照資料一覧

### 資料

Ayuntamiento de Burgos. *CARNAVAL 2020. Programa*. 2020年2月19日収集。

Instituto Nacional de Estadística. *Cifras oficiales de población resultantes de la revisión del Padrón municipal a 1 de enero*. 2020年4月25日閲覧。

economistas Consejo General. *Datos Económicos y Sociales - Mecerreyes*. 2020年3月4日 Ayuntamiento de Mecerreyes の C 氏より収集。

Ayuntamiento de Mecerreyes. *Padrón municipal de habitantes*. 2020年2月26日 Ayuntamiento de Mecerreyes の C 氏より収集。

## 論文・書籍

- Alonso, Carlos Arribas. 2013. *En hablar y el hacer de las gentes de Mecerreyes*. Bubok Publishing S.L.
- Alonso de Martín, J. Salvador. 1993. LA CORRIDA DEL GALLO EN MECERREYES. *Revista de Folklore* 148 (13a) : 117-127.
- 1999. "LAS CARRESTOLENDAS" Y SUS MANIFESTACIONES EN MECERREYES. *Revista Mecerreyes* 63 : 32-43.
- Calvo Brioso, Bernardo. 2012. *MASCARADAS DE CASTILLA Y LEÓN - TIEMPO DE FIESTA*. Junta de Castilla y León/Consejería de Cultura y Turismo.
- Mendoza García, Oscar Javier. 2002 「Mujeres como protagonistas en el carnaval de España」『イスパニカ』46 : 112-129。
- 勝又洋子 2002 「ヴェネツィア—華麗なる仮面の祝祭」『仮面 そのパワーとメッセージ』勝又洋子編、里文出版。
- 谷口幸男、遠藤紀勝 1982 『仮面と祝祭 ヨーロッパの祭にみる死と再生』三省堂。
- 吉田憲司 1994 「ヨーロッパの仮面地図」吉田憲司編『仮面は生きている』岩波書店。

## 注

- (1) "y"や"ll"を濁って発音するもの。例えば"*Mecerreyes*"の発音は「メセレジェス」であるが、カタカナ表記では「メセレイェス」となる。
- (2) 「カーニヴァルの日曜日」あるいは「太った日曜日 (*Domingo del Goldo*) 」と呼ばれる。
- (3) 雄鶏には他にも意味が存在していたという。雄鶏の冠は恋人への贈物として作用し、そのためにコリダ・デル・ガジョの終盤には雄鶏が競売にかけられるが、現在ではそのような意味は雄鶏から喪失している [Alonso de Martín 1993] (Jesús Salvador Alonso de Martín 氏、2020年3月10日、メセレイェスにてフォーマルインタビュー)。
- (4) ブルゴスのカーニヴァルにおける仮装はメセレイェスのディスフラスとは異なり、仮面を着用する（つまり顔を隠す）ものに限らない。付け耳をつけるだけであったり、市販品の着ぐるみを着用したりと、そこに一定の規則は存在しないように見られる（2020年2月21日、ブルゴスにて観察）。また、ブルゴスのカーニヴァルのパンフレットを参照してみても仮装に対して名詞は用いられず、「仮装する (*disfrazar*) 」という動詞でのみ表現されている [Ayuntamiento de Burgos, *CARNAVAL 2020. Programa*]。
- (5) 2020年度のカーニヴァルに登場したディスフラスにおいて"*Chapas*"（口金）と呼ばれるディスフラスが初めて登場したが、Oscar氏はこの"*Chapas*"のディスフラスを「嫌いだ」と表現した。つまり Oscar氏にとって口金は伝統的な、あるいは古いモノではないと捉えられていることを意味する。一方でカーニヴァル当日、あるいは後日を含めて"*Chapas*"のディスフラスに対して何かしらの制限や非難の存在は認められず、それが伝統的かどうかにか

についても語られていない。このことからメセレイェスの人々が述べる「伝統 (*tradición*)」に主観的な側面が少なからず存在していることが見て取れる。また "Chapas" のディスフラスの存在は、メセレイェスの人々が持つ「伝統」観の変容を今後見てもく上で重要な要素となるだろう。

- (6) "Efectivamente ese es el disfraz que hice, otro de los disfraces que hemos hecho recientemente es el de chapas, que tuvo mucho trabajo ya que había que doblar cada chapa una por una para sujetarlas a las cuerdas. Los nombres de los disfraces los ponemos para organizarnos nosotros un poco, los nombres en general son de lo que está hecho el disfraz, pero no tienen ningún significado especial. " (Miguel 氏、2020 年 7 月 10 日、メール文面ママ)
- (7) "Respecto a las categorías, no hay ninguna categoría en los disfraces del carnaval de Mecerreyes" (Miguel 氏、2020 年 7 月 9 日、メール文面ママ)
- (8) このため、現在の 2004 年に初出とされる「熊 (*Oso*)」のディスフラスは、2004 年に作り直されたディスフラスだと言えよう。
- (9) 正確な年代については特定できていない。例えば Oscar 氏が 1975 年に最初のトラクターが導入されたとしているのに対し、J. Salvador 氏は 1970 年であると述べる (Oscar 氏、2020 年 3 月 10 日、メセレイェスにてフォーマルインタビュー・J. Salvador 氏、2020 年 3 月 10 日、メセレイェスにてフォーマルインタビュー)。
- (10) 2019 年のカーニバルは "Las Marzas" の後、3 月 3 日に行われている。
- (11) "simplemente son todo disfraces hechos con cosas del pueblo" (Miguel 氏、2020 年 7 月 9 日、メール文面ママ)